

天文台発 ぽらりす

《2026年2月号/毎月初めに天文台職員が情報発信します》



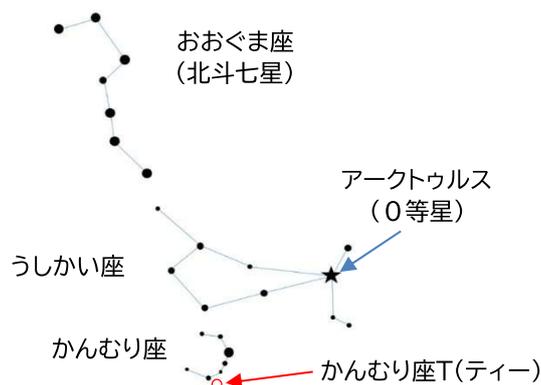
★ その天文現象、見えたの？

今号は、過去の「ぽらりす」に掲載した『今後見られそうな天文現象』のその後について紹介します。(F)

(1) 新星爆発が見られるか「かんむり座T(ティー)」(ぽらりす No. 002(2024年5月発行)掲載)

かんむり座Tと名付けられた恒星は通常10等級程度で、小型の天体望遠鏡で観測できますが肉眼では見えません。しかし、1866年と1946年におよそ2等級まで爆発的に明るくなりました。周期約80年の再帰新星で次回は2026年頃とされていましたが、2023年2月頃から前兆が観測されたことから、同年6月30日ルイジアナ州立大学のBradley E. Schaeferさんらは今年2～9月の間で新星爆発が起こるとの予測を発表しました。

当時はテレビニュース等でも紹介されましたが、現時点(2026年1月27日)までにそれらしい現象は確認されていません。T星(ティーせい)が80年周期を律儀に繰り返すならば、今年新星爆発が起きることになります。かんむり座は春の星座なので、これからが見やすくなるシーズンです。新星が肉眼で見られるのは2～3日とされているため、「増光が始まった」という情報が得られたらすぐに夜空を見上げることが重要です。



(2) 土星の環が見えなくなる？(ぽらりす No. 020(2025年11月発行)掲載)

さて、今月11月24日には地球から土星の環をほぼ真横から見るため「環が見えなくなる」と言われていますが、この日限定ではなく、前後1週間程度(合計約2週間)は同じような角度なので、11月と12月の夜間公開では「土星の環が見えるか見えないか」を確かめる観望になります。

当日、自宅で筆者が所有する口径7.6cmの天体望遠鏡(約50倍)で環を確認できました。別日の天文台の夜間公開でもほぼ同じような「とても細い環」の土星を多くの方が観望しました。そんな土星も今月は夕方の西の低空に見えるようになり、観望期の終了となります。

☆2月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

13日(金)～15日(日) 18:00～20:00 木星・冬の星座

27日(金)、28日(土) 18:00～20:00 月・木星・冬の星座

休台日は2日(月)、9日(月)、12日(木)、16日(月)、24日(火)です。